
アリガトウ

恒河沙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アリガトウ

【Zマーク】

Z7280C

【作者名】

恒河沙

【あらすじ】

なんのドラマも無い。そんな俺の実話です。よければよんぐだ
れい

(前書き)

2007年8月…俺の実話です。平凡な一日を書いてみました。
説つていうか日記に近いかな？ 小

『暇やあ』……俺は友達と呟いた……

俺の名前は坂木裕也

友達の名前は竹中大喜

夏休みも終りが近付き、休み明けのテストに向け勉強をしなければならない時期……俺達は特に何かをするわけでもなく、ただ毎日……喋つたりしていた。

田が沈みかけて、空がいい感じになってきた。

大喜がいきなり『よし！お前、吉田に告れ』

……『はあ！？』俺はいきなりの大喜の発言に耳を疑つた。

吉田ってのは俺が3年ぐらい片想いをしてる女子だ

10秒ぐらいして大喜はまた『いや……はあ！？じゃなくて、お前えかげん告れ！』

俺は不思議と大喜の言葉に抵抗する気はなかつた。『……ええけど、メールやぞ？』といつ俺に、
大喜は嬉しそうな顔で頷いた。

はじめは、普通のメールを何通かして、俺は……

「俺：吉田が好きやあ～」といつメールを送つた。
いまいちはつきりしないメールだが、送るとき結構緊張した。
送つた後の俺は黙りこんで、座つていた。

……携帯がなつた。

おそるおそる携帯を開きメールをみた。

「いきなりやなあ～ビックリするわ～坂木は返事…欲しい？」とい
う内容だった。

もちろん返事がOKだという可能性が少しあれば、返事を求めるだ

ろうが、吉田には彼氏が居る。

だから俺は「いや…ええは返事わかつとるし」とメールを送った。

吉田からのメールの返事は「そつか。こんなウチを好きになつてくれてアリガトウ。坂木は一途やね（笑）」だった。

このメールで俺は…かなり救われたと思う。アリガトウ この言葉がホントでもウソでも…俺が救われたのは事実。

大喜には怒られた…そして一緒に笑つた。

やっぱ大喜…お前は最高や

きっと…

きっと俺はこの先も吉田、、、お前が好きだ。大好きだ。

たとえ彼氏が居ても、たとえお前が振り向いてくれなくとも…

きっと…いや、絶対この気持ちは簡単には消えないだろう。

こんな俺だけど、いつかお前に認めてもらえる様な男になるよ。

じゃあな、夏休み

じゃあな、俺がはじめて本氣で愛した女

泣かねえよ。不思議とそこまで落ち込んじゃいない。お前がくれた

アリガトウ…

俺からも、吉田にアリガトウ

(後書き)

初投稿です。読んでくれてありがとうございます。
中学生なもんで文が読みにくかったかも知れません。よければ感想
下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7280c/>

アリガトウ

2010年12月9日02時30分発行